

連載55
内海善雄の
(ITU前事務総局長)
やぶ睨み
「ネット社会」論

東京都知事は、
韓国大統領に卑屈だったのか？

舛添要一・東京都知事が、朴槿恵・韓国大統領と面会した際、「ペコペコと卑屈な態度をとった」と都庁に二万を越す抗議メールや電話が殺到したという。卑屈な態度をとってまでして、「反日感情の強い韓国と付き合う必要はない」ということらしい。はたして、これらの批判は正当なものだろうか。

マナーの悪い近隣国の観光客

毎月、不愉快な思いをすることがある。仕事の関係で定期的に福岡の一流ホテルに宿泊するのだが、近隣国からの観光客が多く、彼らのマナーが悪いのである。例えば、朝食のビュッフェで料理を取るためにトレーの前を占領し、横の者に場所を譲る気遣いが無い。一方、こちらがトレーから料理を取っていると横から割り込んでくる。

ほんの数秒間のことではあるが、あまり気分の良いものではない。

こんなことだけで結論づけるのは不謹慎だが、「個人レベルの傍若無人な態度が国家レベルに集約されると、尖閣列島や竹島など領土問題に対する一方的態度、また日本企業への破壊・略奪行為や執拗な慰安婦問題に対する攻撃などの反日行為となるのだ」と見ると分かりやすい。

なぜ彼らはこれほど傍若無人なのだろうか。これは、日本人に対してではなく、誰に対しても、また、今に始まったことではなく、昔からそうなのかもしれない。なぜなら日本語には敬語があるが、中国語には敬語がないからである。敬語がある韓国語も、いわゆる絶対敬語と言われるものであって、日本語の敬語のように相手との関係で用法が微妙に異なる絶対敬語ではない。例えば、親のことを表現する際に韓国語では誰の前でも敬語を使うが、日本語では他人の前では敬語を使わない。日本人ほど周囲に気を遣い、相手をおもんぱかり、約束を守る品格ある民族はいない。その長い習慣が独特な敬語として発展しているのである。

しかし、敬語が未発達な言語を使っているからといってその民族が皆、傍若無人であるとは言えない。西欧の言語も敬語の発達がない。しかし、西欧のホテルで福岡と同様の不愉快さを感じることはあまりない。品格があるかどうかは分からないが、少なくとも彼らの対人マナーは日本人よりも良い面がある。例えば、エレベーターに相乗りすると見ず知らずの者でも必ず「グッド・モーニング」とか「ボン・ジュール」と挨拶をして気持ちがいい。日本人は、挨拶ができないどころか、狭い室内で仲間同士が大声で会話し、同乗の者に迷惑をかけている。

国際社会で多くの外国人と接した経験から、人の品格の良さは、概ねその国の民度の高さやその人の教養の深さ、育ちの良さなどに比例するように思う。

近隣国民の品格も、経済が発展し、生活レベルや教育レベルが向上するに従い、良くなっていくのではなからうか。まさに「貧すれば鈍す」の逆である。かつて北京空港やカイロ空港のチェックイン・カウンターで乗客が大勢、行列を作らず押し合いへし合いした大混乱も、空港の整備とともに消えてなくなっ

たように、生活レベルで人の品格も変わる。

国民の品格が向上するにつれ、国家としての品格も向上すると考えると、今日の近隣国との小児的な外交関係は、いずれ大人の関係へと健全化するのではないかと期待が持てる。

「会見」ではなく「謁見」

さて、都知事の態度は品格のない卑屈なものだったのだろうか？

テレビに映った会見模様は、オヤと思うものであった。大統領は背筋を伸ばして右手を出し、舛添氏は背中を丸めて握手し、お辞儀をした。たしかに大統領に「おもねる」ような仕草で、あまり品格がある態度には見えなかった。



お辞儀より会話の内容次第の「品格」(写真/時事)

「日本人が欧米人と挨拶をするときに、まっすぐ相手を見ることが大変難しい。誰でも、ついつい頭が下がるが、堂々と胸を張り、右手を出して握手をするべきである。そのことが、その欧米人と対等に付き合うことができる第一歩だと思ふ。」(拙著『お辞儀』と「すり足」はなぜ笑われる) 日本経済新聞出版社

ところで国家元首である朴大統領が、地方自治体の長にすぎない舛添都知事と会見をするのは、破格の処遇である。それは、「会見」ではなく、「謁見」である。都知事が英国女王に謁見し、親しく会話する機会を賜ったのと同じく同じシチュエーションである。ならば、都知事の態度は、国際プロトコル(儀礼)上、むしろ理にかなっているとも言える。

知事は、朴大統領の破格の処遇を冷や冷やした日韓関係の改善を望んでいるサインを送ってきたものと理解し、少しでも改善に寄与できればとの思いで面会に臨んだに違いない。問題はむしろ会話の内容である。もし、大統領に一方的な発言があったとすれば、それに対してしっかりと日本の立場を述べたかどうかである。大統領の発言にへつらうようなことがあれば、それこそ卑屈な態度であったと批判されるべきである。

そもそも会話内容の詳細は非公開だから、知事への抗議も、会話内容に関して行われたとは考えられない。また、お辞

儀の相手が韓国の朴大統領だったからであり、英国女王であったならば抗議したであろうか。同時期に、国際宇宙ステーションの船長を務めた若田光一氏が文部科学大臣に訪問挨拶する姿がテレビで放映された。若田氏も舛添氏同様、大臣にペコペコとお辞儀をしていたが、超国際人のこの姿を見てどれだけの人が品格のない態度だったと感じただろうか。品格は、単にお辞儀をしたかどうかの立ち居振る舞いだけの問題ではない。

学者に期待される役割

舛添氏は、国際政治学者でもある。国際政治学者なら学者らしく、朴大統領にご進講してもらいたいものである。それは、同質の儒教文化と濃い血の繋がりのある日韓の絆が、地政学的にも、世界経済上も両国の平和・発展に不可欠であり、それこそが両国が共有すべき歴史的認識であることである。もし、そのようなことが行われていけば、いくらペコペコしても大変、品格ある謁見である。



内海善雄(うつみ よしお)
1942年香川県高松市生まれ。東大法学部卒。東芝を経て66年郵政省(現総務省)入省。電気通信の自由化など、通信放送政策を長く担当。98年国際電気通信連合(ITU)事務総局長就任。現在は一般財団法人「海力」理事。IEEE名誉会員。